

はじめに



平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震と津波では、未曾有の災害を引き起こし、数多くの尊い生命・財産が失われました。国内では、自衛隊やボランティアを中心に、被災地に向けて人的・物的な支援が継続して行われましたが、忘れてならないのは海外からの支援です。震災直後の同年 3 月 19 日現在で、世界 128 の国・地域、33 の国際機関から支援の申し入れが日本政府にありました。これは、日本のこれまでの対外援助に対する「感謝の気持ち」の表れとする声もあります。

情報通信技術や交通網の発展により、世界は一段と身近なものになりつつあります。しかし、昔も今も変わらないのは、人と人とを結ぶ「絆」ではないでしょうか。これは、身近な地域で日本人と外国人とを結ぶ絆にも当てはまります。市内の外国人市民の数は年々増加しつつありますが、今後は、一時的な滞在者としてとらえる視点ではなく、文化や言語の違いを認めつつ、地域社会の構成員として共に暮らしていく「多文化共生」の視点が求められています。

本計画は、このような社会の実現を目指して、外国人市民をはじめ、学識経験者や国際交流に携わる代表者などの声を多く取り入れて作成したものです。市では、単に外国人市民にとって暮らしやすいまちでなく、日本人市民も一緒になって外国人市民を受け入れ、相手のことを思いやる気持ちが伝わるまちが築かれるよう、この計画を着実に推進してまいります。

平成 24 年 3 月

上尾市長

島 村 豊